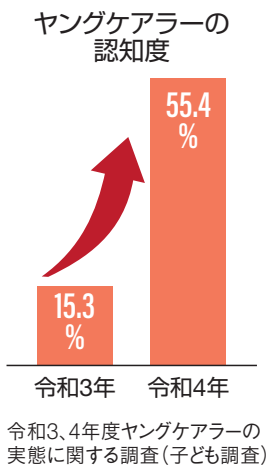




2月に開催したトークライブには、さまざまな立場の人が参加し、ヤングケアラーへの理解を深めた(上)
元ヤングケアラーによる学校訪問(私立富士学苑中学校(左下)甲府市立北東中学校(右下))



昨年実施した実態調査では、ヤングケアラーについて内容まで知っている割合は、一昨年と比較して大幅に上昇しており、認知度は着実に高まっています。

ヤングケアラーとは、本来大人が担うとされる家事や家族の世話などを日常的に行うことで、自身の権利が守られていない子どものことです。県はこれまで、実態調査や動画を活用した普及啓発、支援ガイドラインの策定などに全国に先駆けて取り組んできました。

ヤングケアラー支援で 全国をリード

県は、家庭の状況や育った環境に左右されることなく、全ての子どもが将来への希望や期待を抱き、その実現に向けて挑戦できる社会を目指しています。

その一環として、ヤングケアラーとその家族への支援を強化するため、全国で初めて、ヤングケアラーに特化した支援計画を策定しました。

全国初 ヤングケアラー支援計画を策定

子どもと家族を社会全体で支える

調査結果から捉えた、ヤングケアラーの支援対象となる子どもの割合はおよそ3・6% (28人に1人)。ヤングケアラーは特別な存在ではなく、皆さんの周りにもいるかもしれません。また、ヤングケアラーがいる家庭では、その家庭環境により日常的なケアが生じていることから、子ども本人だけでなく家族全体への支援が必要になります。

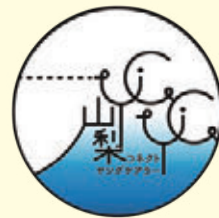
そこで県は、昨年12月、県が行う支援の方向性と具体的な取り組みを盛り込んだ全国初の「ヤングケアラー支援計画」を策定しました。計画では、具体的な施策を4つの体系に整理して、認知度の向上や本人・家族への支援強化を図ります。県民一人一人がヤングケアラーへの理解を深め、気付き、社会全体で支援していきけるよう取り組んでいきます。

ヤングケアラー支援計画とは？

基本理念

全ての子どもが夢に向かって挑戦できるやまなし

～気づいてつながろう 山梨コネクトヤングケアラー～



ヤングケアラー支援の主な取り組み

知る

幅広い世代への広報

YouTubeやTikTok、テレビなどによる広報や、ヤングケアラーによる学校訪問など、対象別にわかりやすく発信。

啓発イベントの開催

元ヤングケアラーと共に、今できることを話し合う「山梨コネクトヤングケアラーLIVE」などを開催。



育てる

ヤングケアラー・コーディネーター養成講座の実施

関係機関のつなぎ役として支援の中心的な役割を担う人材を育成。

支援者研修の実施

ヤングケアラーを直接支援する市町村、学校職員、介護・障害福祉サービス事業者などの職員への研修を実施。



寄り添う

相談窓口の設置

24時間対応可能な電話相談窓口に加え、新たにSNSの相談窓口などを設置。

ピアサポートの実施

ヤングケアラー同士が集まって悩みを共有し、話し合える場を提供。



学校に配布した啓発カード

連携する

ヤングケアラー支援アドバイザーの配置

関係機関への活動支援や相談対応など支援体制全体をマネジメントする人材を配置。

ヤングケアラー支援ネットワーク会議の開催

有識者や支援者で構成する会議を設け、支援の包括的な仕組みづくりを検討。



「家庭の声に応える新たな取り組み

計画を策定する中で、ヤングケアラー本人や家族から、ケアのサポートや家事支援などを公的サービスで充実させてほしいといった直接的な支援を求める声が寄せられました。

そこで県は、こうした声に応えるため、家事支援などのサービスを提供するモデル事業を今年度実施します。掃除や買い物、食事の準備といった家事や家族のケアを代わりに行う

ヤングケアラーについて正しく理解し、一緒に支えていきましょう

1月から、県ヤングケアラー支援アドバイザーとして、市町村や学校、地域の専門職の方が連携して支援するためのつなぎ役などを務めています。

そんな私も、難病の母を中学3年の頃からケアしてきた元ヤングケアラーです。最初は何気なく母を手伝うことからケアが始まりましたが、病状は年々重くなり、病院の付き添いや夜中におぶつトイレに連れていくなど、負担が増えていきました。高校の授業中に寝てしまったことや、一度は大学進学を諦めたこともありました。周囲に同じような境遇の友人がおらず、日々悩む生活が続きました。当時を振り返ると、周囲に頼れる大人がいて相談できる環境があれば、1人で悩まずに済んだのではと感じています。

「ヤングケアラー」という言葉が少しずつ社会に浸透し、山梨でも認知度が上



県ヤングケアラー支援アドバイザー
一般社団法人ヤングケアラー協会
代表理事

宮崎 成悟さん

がっています。3月からはSNSの相談窓口や、ヤングケアラーが互いに悩みを共有する場であるピアサポートが始まり、ヤングケアラーが相談できる環境が今まで以上に充実しました。

私は支援アドバイザーの立場として、元ヤングケアラーの経験を生かし、支援の選択肢は無数にあることを子どもに発信していきます。県民の皆さんも、ヤングケアラーについて正しく理解し、一緒に支えていただきたいと思います。

ことで、ヤングケアラーが一時的に休息する時間（レスパイト）を確保します。このモデル事業の効果を検証した上で、今後、本格的な導入を目指していきます。

県では、家庭の状況やニーズに柔軟に対応することで、ヤングケアラー本人とその家族に寄り添った支援も進めていきます。

県のヤングケアラー支援の詳細はこちらから

